

| | |
|---|--|
| 教育目標(めざす児童生徒像) | 今年度の指導の重点 |
| かしく やさしく たくましい 児童の育成 ・自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・最後までやり遂げる子ども ・健康な子ども | (1)基礎学力の習熟を図り、学ぶ喜びを体験させる。(全員参加の授業づくり・表現力の向上・高学年教科担任制) (2)互いに認め合い、励まし合う態度を育てる。(道徳の時間の充実・あいさつ運動) (3)根気よく、責任をもってやりぬく態度を育てる。(全校集会などの機会を利用して自主性を育てる・たわり班の活動を通じての人間関係づくり) (4)健康で安全な生活態度を育てる。(時を守り、場を清め、礼をつくす) |

| | |
|---|--|
| 調査結果について(調査結果において明らかになったこと) | |
| 【学力状況調査の結果】 全国学力・学習状況調査(6年生) ○国語Aは、県平均より正答率が高かった。また、算数Aが正答率が県平均と同じであった。 ○国語B、算数Bともに県平均を下回った。 課題が見られた問題 国語A…話し合いの中での報告の説明として適切な物を選択する(正答率県68.0%、本校61.5%) 算数A…任意単位で比べていることが分かる図を選択する(正答率県71.7%、本校64.1%) 国語B…物語の中の具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる(正答率県45.3%、本校35.9%、無回答本校32.1%) 算数B…示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表す図を判断(正答率県63.5%、本校53.8%) 県学力・学習状況調査(3~5年生) ○3年国語・算数が津山市平均を上回っている。また、4・5年国語・算数は津山市平均をやや下回っている。 ○本校の傾向として、教科では算数に課題がある。 ○無回答が多い(特に短作文)。また、2極化が見られる。 ○漢字(4年・5年)や計算といった基礎力が弱い。また、「書くこと」に課題がある。 | 【学習状況調査の結果】 全国学力・学習状況調査(6年生) ○平日1時間以上家庭学習をしている児童の割合が県平均に比べて少ない。 ○平日学校の授業以外での読書の時間が県平均に比べて長い。 ○先生は分かるまで教えてくれると答えた児童の割合が県平均に比べて多い。 ○400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと答えた児童の割合が県平均に比べて少ない。 ○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと答えた児童の割合が県平均に比べて少ない。 |

| | |
|---|---|
| 成果 | 課題 |
| ○6年生の漢字定着率がよい。 ○読書の時間が長くなった。 ○「書くこと」に関する抵抗感が徐々になくなりつつある。(校内研究の成果) | ○基礎基本のさらなる徹底が必要である。 ○どの学年も、「書くこと」に課題が見られる。(意欲はあるが「記述力」をつける必要がある) ○家庭学習(時間・内容) |

| 何を(改善すべきこと) | いつまでに(成果検証の期限) | どこまで(対象と達成目標の設定) | どのように(方策) | 達成状況(12月末現在) | 達成度 | 達成状況(年度末) | 達成度 | 次年度への改善点・重点課題 |
|-------------------------|--|---|--|--|-----|---|-----|---|
| 基礎基本の徹底 | ・11月下旬、2月中旬に確かめプリント(各種学力テストを参考にして作成)を実施 | 全学年(達成率9割を目指す。正答率が低い問題については解説をして繰り返し取り組ませる。) | ・朝学習を月～金それぞれの曜日、計画的に行う。 ・東書支援システム、東書WEBプリント等を積極的に活用する。 | ・11月下旬に、全学年で教チェックを実施した。結果を分析し、弱点・それに対していつ、どのような対策を取るかの一覽表を各学年で作成・掲示した。 | B | ・アンケート結果から分析した一覽表をもとに、朝学習の時間、授業時間を使い弱点の補充を行った。 | B | ・全学年の一覽表を印刷室に掲示し、弱点の補充を行った項目からチェックする事によって、改善を「見える化」することができたが、さらなる工夫が。 |
| 授業時間以外の学習(補充学習・家庭学習)の充実 | ・11月下旬、2月中旬に確かめプリント(各種学力テストを参考にして作成)を実施 | 全学年(達成率9割を目指す。正答率が低い問題については解説をして繰り返し取り組ませる。) | ・家庭学習については、アンケート等で実施把握後、校内研究で方向性を確認、全校統一した取組を行う。(全校で自主学習を取り入れることも視野に入れて) ・補充学習では、各種学力テストの結果を分析した結果をもとに弱点の補強を図る。つまづいている学年まで戻って復習を行う。 | ・補充学習は、各学年の実態に応じた内容(弱点補強プリント、割合の問題、果字子問題など)を用意、実施した。家庭学習は、児童アンケートの結果を基に校内で検討、学校だけでなく保護者にも周知した。自主学習に取り組んでいる学年もある。 | B | ・3月中旬に弱点チェックテストを行い、再度弱点の洗い出しをした。4月上旬～中旬に再テストの予定。・春休みの課題を統一(市販のまとめワーク)。4月中旬に付属のテストを実施、解説を行う。 | B | ・3月中旬に弱点チェックテストを行い、再度弱点の洗い出しをしたが、3月上旬に行うと解説・再チェックの時間の確保ができたと思う。 |
| 校内研究テーマに沿った取組 | ・同上(記述式問題については県学力テストを参考にした条件付き短作文で成果を検証する) | 全学年(無回答0を目指す。評価の観点を明らかにし、条件を満たす児童7割以上を目標とする。) | ・条件付きの短作文を書く機会を増やす。 ・書いた作文を掲示コーナーで交流したり、よい物を放送で読み上げたりすることで、意欲の喚起と記述力の向上を図る。 | ・ミニノートを用意し、短作文を書く機会を増やしている。 ・作文を掲示したり、よい作文や詩を放送で紹介している。子どもたちの書く意欲の喚起につながった。 | B | ・子どもたちが「難しい」と感じる事項への指導方法を研修で出し合い、実践に生かした。研究のまとめに記載し、来年度につなげる。 | B | ・児童アンケート、職員研修で「書くこと」に対する成果と課題がはっきりしたが、客観的な指標で「書くこと」の成果を見取りたい。 |

※達成度

| | |
|--|-------------------------------------|
| 小中連携の取組 | 保護者・地域へ理解・協力を求めること |
| 統一した生活指導のキャッチフレーズ(「時を守り、場を清め、礼を尽くす」) 小中連携の会 | 年度当初に配布している「家庭学習の手引き」を利用した、学習時間等の啓発 |